

「同」表現の意味論*

加 藤 雅 啓*

(平成元年10月31日受理)

要 旨

本稿では、日本語の報道文に典型的にみられる「同」表現は照応表現であることを指摘し、統語論、意味論の立場から(A)―(E)の五つのタイプに分類できることを示す。その際、代用形「同」は、意味論的には原則として代示であることを論じる。

KEY WORDS

Substitution	代示	Reference	指示
Coreference	同一物指示	Referent	指示対象

1. 照応表現としての「同」表現

本稿は報道文によく見られる「同」表現の意味と機能を明らかにしようとするものである。ここで言う「同」表現とは、典型的には新聞記事などで用いられる次のような例のことである。

- (1) 南極上空の成層圏でオゾン層が破壊されてできる「オゾンホール」の大きさがこれまでの最大規模に達していることが、18日までの気象庁オゾン層解析室の観測でわかった。

同解析室が南極の昭和基地からのデータを分析したところ、9月の同基地上空でのオゾン全量(平均値)は230ミリアトムセンチで、1961～80年の平均値に比べ24%減少、85、87年(いずれも9月に観測)に次ぐ史上三番目の低い値となった。(日経10/19/89)

上例(1)の同解析室の意味を、それらが生じているパラグラフの中に求めることはできない。この語句の意味解釈をしようとすれば、一つ前のパラグラフを参照し、気象庁オゾン層解析室という語句を手がかりにすることになる。

日本語には代名詞やゼロ代名詞のように、その解釈が専ら周囲の文脈や談話に依存している表現形式がある。

- (2) 太郎は{ ϕ /彼が/自分が}つきあっている人たちは皆いい人だと思っている。
(3) 太郎はまだ独身である。(太郎の)妹が住んで、{ ϕ /彼を}世話している。

* 言語系教育講座

(2), (3) の代名詞 (彼, 自分), ゼロ代名詞 (ϕ) の解釈は先行文脈の太郎を参照しなければならない。

(1)―(3) で見てきたように, それ自体の意味解釈を, 専ら周囲の文脈や当の談話の中に求める表現形式を照応表現と呼ぶことにする。さらに照応表現の意味解釈に必要とされる語句を先行詞と規定する。(1) の例では, 同解析室は気象庁オゾン層解析室を先行詞とする照応表現であり, 同基地は昭和基地を先行詞とする照応表現である。すなわち, 「同」表現もその意味解釈をその他の語句に依存するということから照応表現の一種であるということが出来る。また, 「同」表現の「同」をここでは, 便宜的に代用形と呼ぶこととする。

2. 「同」表現の分析

2.1 語用論的考察

報道文にみられる「同」表現の用法は, (1) のような例以外にも様々な記事の中で頻繁に使用されている。これは限られた紙面の中に多くの記事を盛り込む場合, 「同」表現のようなスペースを節約できる表現は経済的であるからである。この経済性ということを語用論の立場からみると, 次のように述べる事が出来る。われわれが人と話をする場合, 対話を成立させるためお互いが守らねばならない原則がある。Grice (1975) はこれを協調の原理 (cooperative principle) と呼び, この下に四つの範ちゅうを立て, それぞれの範ちゅうは, さらにいくつかの公理から成っている。いまここで関係する公理は, 次の二つである。

(4) 情報の量に関する公理

- a. (対話のそのときの目的に即して) 必要なだけを言え。
- b. 必要以上を言うな。

この公理は対話の場だけに限らず, 報道文に関しても有効であると思われる。同一語句の意味のない繰り返しを避けるという機能を担った「同」表現は, 公理(4)が言語使用の中に具現化された例の一つと言えよう¹⁾。

2.2 統語論的考察

さて, 次に「同」表現は報道文の中でどのような用いられ方をしているのか, 具体例で見てみることにしよう。

- (5) a. 店頭公開直前のリクルートコスモス株を, 江副前リクルート会長が第三者割当先から買い戻した疑いがもたれている問題で, 日本証券業協会の内規に触れる可能性が出てきた。このため, 同協会がなんらかの処分にするのではないかと懸念から, 20 日同社株は急落した。(日経 10/21/88)
- b. リクルート疑惑で国会喚問を受けた高石邦男前文部事務次官のパーティー券を買った長崎県公立学校施設整備期成会 (会長・鐘ヶ江管一島原市長) に 16 日, 購入代金 100 万円が返還された。同期成会では 15 日, 返還を要請する文書を高石氏側に郵送

していた。(日経 12/17/88)

- (6) a. ユナイテッドスチールは金メダルの小林孝至を三階級特進で給料倍増, ソウル四位の明石光生を二階級特進で同 1.5 倍にした。(日経 12/16/88)
- b. 不法労働者を国籍別にみると, パキスタンが 2246 人で全体の 24.2% を占め, 初めてトップになった。以下フィリピン 2107 人, バングラデシュ 1695 人, 韓国 1345 人, マレーシア 706 人の順。

この中でも韓国(前年同期比約 3 倍), マレーシア(同約 20 倍)の増加が目立ち, 特に韓国は今年 1 月から実施した海外渡航自由化の影響が大きい。(日経 10/22/89)

(5a) では, 「同」表現である同協会は先行詞の日本証券業協会の一部, 「日本証券業」を代用形「同」で置き換えたものである。(5b) も同様に, 先行詞の一部である「長崎県公立学校施設整備」を「同」で代用したものである。このように先行詞の一部を代用形「同」で置き換えた用法は「同」表現の最も一般的な用法であるように思われる。

一方, (6) の例を見てみると, 一見, (5) と大きな違いはないように思われる。(6a) では, 「同」は先行詞の給料倍増の一部, 「給料」を, (6b) では, 前年同期比約 3 倍の一部, 「前年同期比」を代用している。ところが, よく見てみると (5) と (6) とでは統語的な違いが存在していることが明らかになる。

結論からさきに言えば, (5) の例では代用形「同」とそれに続く名詞句が構成素(constituent)を成しているのに対して, (6) の例ではそれらが構成素を成していない²⁾。例えば, (5a) の同協会の例で考えてみる。

- (7) a. 早くも同協会分裂の危機が訪れた
- b. *同早くも協会分裂の危機が訪れた³⁾

同協会の「同」と「協会」の間に「早くも」という副詞が割って入ったため, (7b) が不適格となつていられる。このことから同協会は構成素を成していると考えざるを得ない⁴⁾。(5b) の同期会も同様である。

つぎに, (6a) の「同 1.5 倍」について, 次の例で考えてみよう。

- (8) a. 早くも給料倍増となる
- b. 給料早くも倍増となる
- (9) a. 早くも同 1.5 倍 (同=給料)
- b. 同早くも 1.5 倍 (同=給料)

(8b) の例で, 代用形「同」の先行詞となっている「給料」とそれに続く「倍増」とは, 間に「早くも」という副詞を挿入できることから, 構成素を成していないことがわかる。また, 同 1.5 倍が構成素を成していないことも (9b) が適格文であることから言える。(6b) も同様である。

以上, この節では「同」表現を統語論的に分析すると, 構成素を成すものと, 構成素を成さないものの二種類に分類できることを述べた。ここでは, 前者を A タイプの「同」表現, 後者を B タイプの「同」表現と呼んで区別し, 以下, それぞれを「同」表現(A), 「同」表現(B)と略記

する。

2.3 その他の「同」表現

本節では、「同」表現(A)にも「同」表現(B)にも分類されない「同」表現があることを見ていくことにする。

報道文では、しばしば次の例のように、「同」表現の「同」のみを単独で使用する。

- (10) a. 国家公安委員会、警察庁は23日、福岡県警の機動捜査係長、山根勝利(46)＝懲戒免職＝の短銃による金融機関強盗事件と、大阪府警堺南署の派出所で西村正博巡查(31)＝同＝が拾得物の現金を着服した上、届出た主婦を犯人扱いにした事件で、根本好教福岡県警本部長(51)、新田勇大阪府警本部長(54)にそれぞれ減給100分の10、1ヶ月、井野忠彦福岡県警警務部長(43)、愛甲実同県警刑事部長(56)、長尾良次大阪府警警務部長(52)にそれぞれ減給100分の2、1ヶ月の懲戒処分をした。(日経6/24/88)
- b. 臨時定員増を申請した私立大学は立命館大(440人)、中央大(300人)、明海大(210人)、朝日大(200人)、中部大(同)、大阪工業大(同)、追手門学院大(180人)、成城大(175人)、立教大(140人)——など38大学で、定員増の総数は4255人。(日経10/21/89)

(10)の「同」表現は、代用形「同」の後に構成素を成す支持語も他の要素も持たない例である。例えば、(10a)では、代用形「同」は先行文脈にある懲戒免職に照応し、(10b)の「同」は200人を受けている。このタイプの「同」表現をCタイプの「同」表現と呼び、「同」表現(C)と略記する。

これまで見てきた三種類の「同」表現は、いずれも一つの統語的共通点を共有している。それは「同」表現(A)にしろ「同」表現(B)、「同」表現(C)にしろ、必ず先行文脈の中に明示的な先行詞が現れているということである。たとえば、(5a)では日本証券業が、(6a)では給料が、(10a)では懲戒免職が、それぞれの代用形「同」に対して先行詞となっている。

ところが、「同」表現の中には、先行文脈の中に明示的な先行詞が現れていないものがある。

- (11) a. 名古屋都心を東西に貫く幹線道路・若宮大通(名古屋市中区、100m道路)の地下に大規模な民間駐車場を建設する構想が、15日までに地元商店街などの間でまとまった。地元では世界デザイン博(64年)終了後の昭和65年完成を目指しているが、完成すると市内で最大級の駐車場となり、慢性的な違法駐車に悩む都心部の駐車場不足の解消に役立つと期待されている。

同駐車場建設計画を進めているのは、若宮大通を挟んで南側にある大須地区の八商店街と、北側の栄・広小路、南大津通地区の七商店街。(中日6/16/88)

- b. 24日午前7時頃、別府市内の病院から「運び込まれた小学生が死んだ。不審な点がある」と別府署に届があった。

調べによると、同市千代町15、新聞販売店経営松下重成さん(37)の長男清隆君(12)(南小6年)で、20日夜、頭痛と吐き気を訴え同病院で診察を受けた。(読売1/

25/86)

(11a) では、同駐車場建設計画の代用形「同」の先行詞は、先行文脈の中に明示的な名詞句として現れていない。代用形「同」は何を受けているかと問われれば、それは若宮大通の地下に建設予定の大規模な民間駐車場ということになる。

次に (11b) の例を見てみよう。同病院の「同」の先行詞は、先行文脈にある「別府市内の」と、単純に考えることは意味的に妥当ではない。「別府市内の病院」を文脈から独立させて考えると、別府市内に在るある病院という意味になり、英訳すれば a hospital in Beppu City という不定名詞句で表示される。ところが、これを文脈の中で考えてみると、「別府市内の病院」は、実際に診察を受けた別府市内に在るある特定の病院という意味になり、英訳すれば the hospital in Beppu City という定名詞句で表示される。これらの事を頭において同病院の「同」の先行詞を考えてみると、もはや先行詞に相当する明示された語句を先行文脈の中に求めることが不可能であることに気付く。

それでは、このような「同」表現を我々はどのように解釈しているのか。結論からさきに言えば、それは推論あるいは類推と呼ばれるような手続きに依存していると思われる。すなわち先行文脈から得られる意味情報を手がかりにして、意味的に妥当な先行詞を再構成するのである。このことを確かめる意味でもう一つ実例を見てみよう。

- (12) 東京江東区で16日までに、フィリピンから持ち込まれたとみられる巧妙に偽造された1万円札が出回っていたことがわかり、警視庁捜査三課は捜査本部を設置、通貨偽造・同行使の疑いで捜査を始めた。(毎日 12/17/88)

(12) では、「同行使」の「同」の先行詞は、一見、直前の「通貨偽造」であるかのように思われる。すなわち、上の記述は、通貨偽造・通貨偽造行使と解釈する。しかし、これは事実と反する。というのは、いまここで問題となっているのは、刑法上の罪名である。当該の正しい罪名は、刑法第148条の「通貨偽造・偽造通貨行使」である。このことから、「同行使」の「同」の先行詞が明示的な先行文脈に現れていないことは明らかである。そこで、どうするのかというと、先行文脈の「通貨偽造」からの類推で「同」を「偽造通貨」と解釈するのである。(11)―(12) で見てきたような「同」表現を D タイプの「同」表現と呼び、「同」表現(D)と略記する。

これまで見てきた「同」表現（「同」表現(A), 「同」表現(B), 「同」表現(C), 「同」表現(D)）はいずれも照応機能を持っていたが、次に見る例はこの機能を失い、普通名詞に転化されている用例である。

- (13) a. 消費税導入と通行税廃止で四月から新幹線と航空機の運賃がほぼ、同額になった西日本の足の動脈、大阪―福岡間で、この半年間に航空機の利用客が前年同期比で11%増と大幅に伸びたのに新幹線は3%増にとどまり、空が新幹線を圧倒していることが21日までに明らかになった。(日経 10/22/89)
- b. シマダさんが所属するウォールストリートの大手法律事務所ブラウン・アンド・ウッドでは、85年入社の同期が87年から88年にかけて相次いで事務所を去った。(日経 10/23/89)

(13a)では、「同」表現の「同」が担っている照応機能に頼って、先行文脈に先行詞を求めるという手続を読み手に要求してはいない。ほぼ同額になった航空機と新幹線の運賃は、それぞれの運賃表に載っているのであるから、この「同」は外界に指示物を持つ外界照応⁵⁾の例のように見えるかもしれない。しかし、ここで問題になっているのは、両者の運賃が幾らであるか、ということではなく、消費税導入と通行税廃止により、新幹線と航空機の運賃がほぼ同額になったということである。言い換えれば、記者はここでは運賃の額よりも、むしろ、両者の運賃にほとんど差がなくなった、という事実を述べたいのである。この意味でこのような「同」表現は、もはや照応機能を担っておらず、普通名詞に転化した用例であると考えられる。(13b)も同様である。そこでこのような「同」表現をEタイプの「同」表現と呼び、「同」表現(E)と略記する。

3. 「同」表現の意味論

前章では、主に統語論的立場から「同」表現の分析をおこない、これを(A)タイプ―(E)タイプまで五つのタイプの「同」表現に分類した。この章では、意味論的立場から論を進めるが、その際、Halliday-Hasan (1976)、およびその知見を取入れて代用表現を詳述した安井・中村(1984)の枠組みに基づいて「同」表現を考えていくことにする。

3.1 同一物指示と代示

Halliday-Hasan (1976)は談話の構成という観点から代用表現論を展開しているが、そこでは代用表現を大きく二つに分け、同一物指示 (reference) と代示 (substitution) に分類している。

[同一物指示]

Halliday-Hasan (1976)は同一物指示について次のように述べている。

There are certain items in every language which have the property of reference, in the specific sense in which we are using the term here; that is to say, instead of being interpreted semantically in their own right, they make reference to something else for their interpretation. Halliday-Hasan (1976: 31)

同一物指示という用法は、意味解釈に必要な先行詞をテキスト内外に求め、その先行詞が持つ指示対象と同一の個体を自らの指示対象として同定するような指示の仕方である。具体例で見てみよう。

(14) Speaker A: Did the gardener water my hydrangeas?

Speaker B: He said so.

Halliday-Hasan (1976: 14)

例文(14)でHeの指示について考えてみる。heという人称代名詞はテキストや文脈の助けを借りて、言語外の人物等を指示するように仕組まれている語である。そこで先行文脈を見ると、

そこに the gardener という語が現れている。この固有名詞は、言語外世界にある特定の個人を指示している。人称代名詞 He は the gardener を参照することによって、自らの指示対象を決定することができるのである。もっと言えば、人称代名詞 He は先行詞 the gardener を指示するのではなく、先行詞によって指し示される言語外世界に存在する指示対象、すなわち the gardener という人を指示しているのである⁶⁾。

上で述べたことが同一物指示の基本的な機能であるが、これ以外にも際だった特性がある。次の例文で見てみることにする。

- (15) [The Queen said:] ‘Curtsey while you’re thinking what to say. It saves time.’ Alice wondered a little at this, but she was too much in awe of the Queen to disbelieve it.
Halliday-Hasan (1976: 52)

(15) の例文で、最初の it は「何を言おうか考えている間お辞儀をする」こと (thing) を指している。つぎの it は「何を言おうか考えている間お辞儀をするのは時間稼ぎになる」という事実 (fact) を指している。

このように代名詞の先行詞は、(14) の例のように the gardener のような語である場合もあれば、(15) のように文章の一部、あるいはそこから抽出された意味内容であることもある。このことを Halliday-Hasan (1976) はつぎのように述べている。

- the referent is more than just a person or object, it is a process or sequence of processes (grammatically, a clause or string of clauses, not just a single nominal)
Halliday-Hasan (1976: 52)

これはすなわち、文章の一節であればいかなる部分でも、あるいはそこから抽出された意味内容も、その大きさに関係なく、先行詞となることができるということである。

[代示]

Halliday-Hasan (1976) は代示について、次のように述べている。

- ... substitution as the replacement of one item by another... The distinction between substitution and reference is that substitution is a relation in the wording rather than in the meaning.
Halliday-Hasan (1976: 88)

Substitution is a relation between linguistic items, such as words or phrases; whereas reference is a relation between meanings. In terms of the linguistic system, reference is a relation on the semantic level, whereas substitution is a relation on the lexicogrammatical level, the level of grammar and vocabulary, or linguistic ‘form’... Substitution, on the other hand, is a relation within the text. A substitute is a sort of counter which is used in place of the repetition of a particular item...as a general rule, the substitute item has the same structural function as that for which it substitutes.

Halliday-Hasan (1976: 89)

これらを要約すると、代示とは、ある表現の代りに他の表現を当てる表現形式で、テキスト内

の関係に基づく一種の場所取りのカウンター (counter) である代用辞 (substitute) を用いる、ということができる。代用辞は、必ず先行詞をテキスト内に持ち、その文法機能は先行詞である元の形式の文法機能と同じになっている必要がある。先に見た同一物指示が意味の関係であるのに対し、代示は言語形式と言語形式の間に成立つ文法形態上の関係に基づいて規定される。次例で考えてみよう。

- (16) a. My axe is too blunt. I must get a sharper one.
b. You think Joan already knows?—I think everybody does.

Halliday-Hasan (1976: 89)

(16a) の例では、one は axe の文法的代示表現であり、(16b) の does は knows の文法的代示表現である。代示という表現形式では、one がどういう語を代用しているのか、あるいは does がどういう語を代用しているか理解するためには、テキストの先行文脈を参照し、当該の代用表現と照応関係を結んでいる要素 (先行詞) を同定しなければならない。安井・中村 (1984: 27)

3.2 「同」表現と同一物指示・代示

前節では Halliday-Hasan (1976) の枠組みにそって、同一物指示と代示の指示機能の相違を見た。この節では、2 章で分類した「同」表現(A), 「同」表現(B), 「同」表現(C), 「同」表現(D)の代用形「同」が、それぞれ同一物指示であるのか、あるいは代示であるのか検討する。

ある表現が同一物指示であるか代示であるかについて、安井・中村 (1984) は、次のように述べている。

一般に、ある表現形式があつて、それを代示表現であると主張することが可能である場合には、それが同一物指示表現ではないことを示す、いわば、消極的な証拠と、それがまさに代示表現に他ならないことを示す積極的な証拠とがそろえられている必要がある。

安井・中村 (1984: 225)

3.2.1 「同」表現 (A)

最初に「同」表現(A)の例である (5a) について見てみよう。(参照の便宜上 (17) として再録する。以下、同様)

- (17) 店頭公開直前のリクルートコスモス株を、江副前リクルート会長が第三者割当先から買い戻した疑いがもたれている問題で、日本証券業協会の内規に触れる可能性が出てきた。このため、同協会が… (= (5a) 日経 10/21/88)

代用形「同」が、先行文脈に現れている先行詞「日本証券業」に照応していることは、すでに 2.2 で述べた。すなわち、この代用形が代示であるための条件[テキスト内に必ず先行詞を持つこと]を満たしている。今、かりにこの代用形が代示であるとする、次に考えなければならないのは、この代用形は同一物指示ではない、ということである。このことに関しては、3.1 で指摘したが、同一物指示という用法は、意味解釈に必要な先行詞をテキスト内外に求め、その

先行詞が持つ指示対象と同一の個体を自らの指示対象として同定するような照応の仕方である、ということをお願いして欲しい。代用形「同」は、(17)の場合、テキスト内に先行詞「日本証券業」を持っている。この「日本証券業」という語句は指示対象を持っているだろうか。なるほど「日本証券業協会」という語句は、この世界に、ある団体として指示対象を持つ。しかしながら、「日本証券業」という名称で呼ばれる対象は、存在しないのである。すなわち、代用形「同」の先行詞「日本証券業」は、この世界に指示対象を持たないのである。したがって、(17)の代用形「同」は代示であることになる。(5b)の「同」期成会も同様である。以上の論理的帰結として、「同」表現(A)の代用形「同」は代示であることになる。

3.2.2 「同」表現(B)

さて、次に「同」表現(B)の代用形を(6)を例にとって検討してみよう。

- (18) ユナイテッドスティールは金メダルの小林孝至を三階級特進で給料倍増、ソウル四位の明石光生を二階級特進で同 1.5 倍にした。(=(6a) 日経 12/16/88)

同一物指示用法における代用形「同」は、その先行詞を仲立ちとして、われわれの世界にある指示対象と関係を結ぶ用法である。(18)では、「同 1.5 倍」の「同」は、先行テキスト内にある「給料」と照応することになる。「同」が、いま、同一物指示であるとする、この「給料」は「小林孝至がこれまで貰っていた給料」を指示対象として持つ。すなわち、代用形「同」の意味は、「小林孝至がこれまで貰っていた給料の 1.5 倍」ということになる。しかしながら、このような解釈は、一般的には許されない。正しい解釈は「明石光生がこれまで貰っていた給料の 1.5 倍」となる。このような不適当な解釈が生じたのは、代用形「同」を同一物指示と仮定したからである。

それでは、次に、この代用形「同」は代示であると仮定して検討してみよう。すでに 3.1 で述べたように、代示は、言語形式と言語形式の間に成立つ文法形態上の関係に基づいて規定される表現形式である。すなわち、代用形「同」の文法機能は、その先行詞である元の形式のそれと同じになっている必要がある。また、代示は、同一物指示と異なり、言語外の世界に先行詞を求めることはできず、専らテキスト内の言語形式とのみ照応関係を結ぶ。これらのことを念頭において(18)を見てみると、代用形「同」は先行文脈の「給料」を先行詞としている。もっと言えば、この代用形は、テキスト内の言語形式である「給料」と照応関係を結んでいるのであって、現実世界の「小林孝至がこれまで貰っていた給料」と指示関係を結んでいるのではない。したがって、代用形「同」を同一物指示と仮定した場合のような不都合は生じない。これらのことを考え合わせると、「同」表現(B)の代用形「同」は代示であると言うことができよう。

3.2.3 「同」表現(C)

「同」表現(C)は代用形「同」の後に、構成素を成す支持語も他の要素も持たず、代用形「同」が単独で用いられる用法である。用例を見てみよう。

- (19) a. 国家公安委員会、警察庁は 23 日、福岡県警の機動捜査係長、山根勝利(46)=懲戒免職=の短銃による金融機関強盗事件と、大阪府警堺南署の派出所で西村正博巡査(31)=同=が拾得物の現金を着服した上、…(=(10a) 日経 6/24/88)
- b. 臨時定員増を申請した私立大学は立命館大(440 人)、中央大(300 人)、明海大(210

人), 朝日大 (200 人), 中部大 (同), 大阪工業大 (同) … (= (10b) 日経 10/21/89)

(19a) では, 代用形「同」は先行文脈にある「懲戒免職」に照応し, (19b) の「同」は「200 人」を受けている。この代用形「同」は, まさに Halliday-Hasan (1976: 89) や安井・中村 (1984: 54) のいう, 「個々の語句を繰返す代りに用いる一種の場所取りカウンターである。……先行テキストの中に用いられているある特定の名詞に代って, その場所を, その名詞のために, 確保しておくために用いられるのである。」(安井・中村 1984: 54) また, (19a) の「懲戒免職」も (19b) の「200 人」もともに, 現実界に指示物を持たない。以上, 「同」表現(C)の代用形「同」が代示であることは明らかである。

3.2.4 「同」表現(D)

この「同」表現(D)は, 2.3 で詳述したように, 先行文脈の中に明示的な先行詞を持っていない例である。ということは, 「同」表現(D)の代用形「同」は代示ではないことになる。残された可能性は, 同一物指示の用法である。次の例でこれを考えてみよう。

- (20) a. 名古屋都心を東西に貫く幹線道路・若宮大通 (名古屋市中区, 100 m 道路) の地下に大規模な民間駐車場を建設する構想が, 15 日までに地元商店街などの間でまとまった。地元では世界デザイン博 (64 年) 終了後の昭和 65 年完成を目指しているが, 完成すると市内で最大級の駐車場となり, 慢性的な違法駐車に悩む都心部の駐車場不足の解消に役立つと期待されている。

同駐車場建設計画を進めているのは… (= (11a) 中日 6/16/88)

- b. 24 日午前 7 時頃, 別府市内の病院から「運び込まれた小学生が死んだ。不審な点がある」と別府署に届があった。

調べによると, 同市千代町 15, 新聞販売店経営松下重成さん (37) の長男清隆君 (12) (南小 6 年) で, 20 日夜, 頭痛と吐き気を訴え同病院で診察を受けた。 (= (11b) 読売 1/25/86)

(20a) では, 「同駐車場建設計画」の代用形「同」の先行詞は, 先行文脈の中に明示的な名詞句として現れていない。先行詞は何か, と重ねて問われれば, それは「若宮大通の地下に建設を予定している大規模な民間駐車場」と, 文脈から推論して答えるしか方法はない。この計画中の駐車場は, 現実世界にはまだ存在していない。このような, いわば, 構想の中にしか存在していない対象に対して, はたして, 同一物指示は機能するのであろうか。答えは, イエスである。次の例文を見てみよう。

- (21) John wants to catch a fish.

- (22) John wants to touch a fish and I want to kiss it.

例文 (21) の fish の解釈には二通りあることが知られている。一つは, John の捕まえたい魚が事実世界に実際に存在する場合に成立つ解釈で, これを特定の (specific) 解釈という。他の一つの解釈は, John の願望の中に存在する魚という解釈で, これを非特定の (non-specific) 解釈という。安井・中村 (1984: 15) によれば, このような want を含む文では, 非特定の解釈の方

が優勢であるとされる。すなわち、a fish は、John が実際に取ることに成功したときに限って存在することになる、すなわち虚構の世界にある魚を指すのが普通である。このことを考慮に入れて、(22)の文を見てみよう。動詞 want は独立の虚構の世界を構成することを許されているから、a fish にも it にも、それぞれ非特定の解釈を当てることができる。つまり、a fish については、John が実際に触れることができたときに限って事実世界に存在することになる魚、という意味になり、it については、話し手 (I) がキスすることに成功したときに限って、特定することが可能になるもの（この例文では、魚）が意味されているということである。（安井・中村（1984: 16））

いま、上で述べたことは日本語の例でも当てはまる。

- (23) a. 山田君はパーティに（ある）女の子を連れてきて、彼女をみんなに紹介するだろう。
b. 大学入試に合格したら車を買ってもらい、それで北海道を一周するつもりだ。

(23a)の彼女は、山田君がパーティに連れてきたときに限って特定できる女の子、という意味をもつ。同様に、(23b)のそれは、大学入試に合格した時に限って買ってもらえることになる車、と解釈される。いずれの例も、典型的に同一物指示の機能を担う代名詞（彼女、それ）が、虚構の世界に存在する対象物を指示していることは明らかである。

さて、これらのことをふまえて (20a) の例に立ち戻ろう。この計画中の駐車場は、現実世界にはまだ存在していない。「同駐車場建設計画」の代用形「同」は、いわば、虚構の世界にある「若宮大通の地下に建設されたときはじめて存在することになる大規模な民間駐車場」を指示対象としているのである。(21)―(23) で見た代名詞と同様に、この代用形「同」は同一物指示の表現であることは明らかである。

次に、(20b)の「同病院」について考えてみよう。すでに、2.3 で、代用形「同」の先行詞は、先行文脈に明示されていないことを述べた。したがって、この代用形が代示である可能性はない。先行文脈から得られる先行詞は、「別府市内の病院」である。これを文脈の中で考えてみると、「別府市内の病院」は実際に診療を受けた別府市内に在るある特定の病院という意味になり、代用形「同」は事実世界に指示対象をもつ。すなわち、この代用形も同一物指示の表現である。

「同」表現(D)の最後の例として、次の例文を見てみよう。

- (24) 東京江東区で16日までに、フィリピンから持ち込まれたとみられる巧妙に偽造された1万円札が出回っていたことがわかり、警視庁捜査三課は捜査本部を設置、通貨偽造・同行使の疑いで捜査を始めた。（=12毎日 12/17/88）

この例文の代用形「同」の先行詞は、直前の語句「通貨偽造」ではないことはすでに2.3で述べた。先行詞がテキスト内に明示されていないのであるから、この代用形「同」は代示ではない。そうすると、残された可能性は、必然的に同一物指示ということになる。2.3で指摘したことであるが、この代用形「同」の解釈は、推論あるいは類推とよばれるような手続きでなされる。それでは、同一物指示と推論あるいは類推との関係はどうなっているのだろうか。

(24)の「同行使」で代用形「同」の解釈をする場合、当然、直前の語句「通貨偽造」を参照する。ところが、通貨偽造行使という罪名は、正しい罪名としては存在しない。そこで、どうす

るかという、頭の中で再分析(reanalysis)するのである。すなわち、[通貨偽造]→[通貨]+[偽造]→[偽造]+[通貨]→[偽造通貨]というプロセスを経て、いわば、頭の中にある一つの虚構の世界に、[偽造通貨]という指示対象を作り上げるのである。代用形「同」に課せられた役割は、この虚構の世界にある対象[偽造通貨]を指示することである。この代用形「同」の用法は、これまで述べたことから同一物指示に他ならない。

以上、(20a), (20b) および (24) で用いられている「同」表現(D)は、同一物指示の用法であることを指摘した。

3.2.5 ま と め

この節では、意味論的立場から「同」表現の指示機能について考察してきた。そのさい、Halliday-Hasan (1976) および安井・中村 (1984) の枠組にしたがって分析を試みた。その結果、「同」表現(A)、「同」表現(B)、「同」表現(C)の代用形「同」は代示に、「同」表現(D)の代用形「同」は同一物指示に分類されることを明らかにした。

3.3 「同」表現の指示機能と照応機能

ここで、誤解のないように確認しておかなければならないことは、代用形「同」が後ろにいわゆる支持語を持つ「同」表現(A)の場合、「同」表現全体がひとまとまりとして代示の機能を持っているのではなく、「同」表現の一部である代用形「同」が代示の機能を担っている、ということである。次の例文で、このことを確認しておこう。

- (25) 27 日午後 2 時 5 分ごろ、名古屋市熱田区の世界デザイン博覧会白鳥会場の西ゲート付近で、同会場に見学に来ていた三重県度合郡大宮町立滝原中学校（生徒数 112 人）の小野豊校長(59)が、集合時間に遅れた同中 3 年の男子生徒 3 人の頭を、棒切れのようなものでなぐった。(日経 10/28/89)

例文 (25) の「同会場」についてみると、代用形「同」の先行詞は先行文脈にある「世界デザイン博覧会白鳥」である。「世界デザイン博覧会白鳥」なる指示対象は現実界には存在しない。したがって、この代用形「同」は代示である。しかし、われわれは「同会場」の意味するところは、虚構の世界にある「世界デザイン博覧会白鳥会場」ではなく、現実界にある「世界デザイン博覧会白鳥会場」と理解する。このギャップを埋める手がかりは、「同」表現の支持語である「会場」にある。この語は定名詞句であり、したがって、現実界に指示対象をもつ。それは、(25) の「同会場」から「同」を省いて、「会場」としても文意は変わらず、また、その場合、もし「どの会場ですか？」と尋ねられても、文脈から「世界デザイン博覧会白鳥会場です」と答えられることから明らかである。すなわち、この例で現実界と接点を持つのは、定名詞句の支持語「会場」であることに注意しておかなければならない。

上で述べたことをまとめると、次のようになる。「同」表現(A)のような代用形「同」+「支持語」の形式を持つ「同」表現では、代示としての代用形「同」が担っている照応機能によって、先行文脈にある先行詞を同定し、次に、定名詞句である「支持語」が担っている指示機能によって、言語外世界にある指示対象を同定する。

4. ま と め

本稿では、日本語の報道文に典型的に見られる「同」表現を、統語論および意味論の立場から分析し、「同」表現は、「同」表現(A),「同」表現(B),「同」表現(C),「同」表現(D),及び「同」表現(E)に分類できることを示した。さらに、「同」表現(A),「同」表現(B),「同」表現(C)の「同」表現は、代示であること、「同」表現(D)は同一物指示であり、「同」表現(E)は普通名詞に転化された用法であることを論じた。「同」表現の問題については、この他、「同」表現と同一語句(とくに固有名詞)の繰返し、「同」表現とエンパシー、さらに「同」表現と引用文との関係等、興味ある問題があるが、これらについては、稿を改めて論じることにする。

注

*本稿は、1988年12月18日福岡言語学研究会において口頭発表したものに、加筆・修正を施したものである。貴重なコメントを下された稲田俊明、上野恵美子、川瀬義清、その他、会員諸氏に感謝する。また、インフォーマントとしてご協力頂いた前川利広氏に謝意を表する。

- 1) 同一語句繰返しの効果については、Bolinger (1979:292), 牧野 (1980:30-33, 116-128) を参照。
- 2) 構成素という概念は、次の文の適格性を述べる際に必要となる。
 - (i) John rang up Mary's sister.
 - (ii) * John rang and Harry Picked up Mary's sister.
 (i)が適格で、(ii)が不適格なのは、(i)では句動詞 rang up の rang と up の間に何も介在しないが、(ii)では rang と up の間に and Harry picked という語句が介在しているからである。rang と up は二つの別個の要素ではなく、動詞句という単一の節点によって支配されていると考える。このことを rang と up は VP という構成素を成しているという。
- 3) *は、その文が不適格であることを示す。以下同様。
- 4) 注2を参照のこと。
- 5) He said so.のような文で、Heの先行詞に相当するものがテキスト内に発見されない場合、その指示対象を場面などの言語外の世界に求める指示の仕方を外界照応という。テキスト内照応に対する概念である。
- 6) Halliday-Hasan (1976) は、〈同一物〉指示を、場面对応した外界照応 (Exophora) と、テキスト内に対応したテキスト内照応 (Endophora) に大別し、後者は、さらに、先行テキストに対応する前方照応 (Anaphora) と、後行テキストに対応する後方照応 (Cataphora) に分類している。

参 考 文 献

- Bolinger, Dwight L. 1979. "Pronouns in Discourse." in *Syntax and Semantics* Vol.12 *Discourse and Syntax*, (ed. by T. Givón), New York: Academic Press, 289-309.

- Halliday, M.A.K. and R. Hasan. 1976. *Cohesion in English*. London : Longman.
- Grice, H.P. 1975. "Logic and Conversation." in *Syntax and Semantics* Vol. 3 Speech Acts.
(eds. by Cole, P. and J.L. Morgan), New York : Academic Press, 41-58.
- 久野 暁 1978. 『談話の文法』 東京：大修館
- 牧野成一 1980. 『くりかえしの文法』 東京：大修館
- 安井 稔・中村順良 1984. 『代用表現』『現代の英文法』第10巻，東京：大修館

SEMANTICS OF JAPANESE “*DOU*” EXPRESSIONS

Masahiro KATO

ABSTRACT

The aim of this paper is to analyze Japanese “*Dou*” expressions, which are typically used in the articles of newspapers to avoid the repetition of the identical words and phrases. We examine “*Dou*” expressions from both syntactic and semantic point of view and classify them into five types. We also show that the substitute form “*Dou*” of “*Dou*” expression is basically the example of substitution.